たことによって状況が変わり，属名のデータベース作成プロジェクトに研究費が配分された．長期に渡るこのような基礎的プロジェクトを許容するアメリカ魚類学界の奥深さを感じさせる挿話である．

Eschmeyerは既に次のプロジェクトを考えている．種名のデータベースには実は相対的に弱い部分もある（東南アジアの淡水魚類など）ので，改訂を行いたいというのである．新しいチーム編成で次のプロジェクトを始めようという情熱には頭が下がるが，と同時にデータベースに「はまって」しまった恐ろしさも感じるのである．

（松浦啓一　Keiichi Matsuura：〒169–0073 東京都新宿区百人町3–23–1　国立科学博物館動物研究部　e-mail: matsuura@kahaku.go.jp）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
45(2): 121

□ 魚類学一般

European freshwater fishes. —Maurice Kottelat. 1997. Biologia, Bratislava, Sec. Zool., Vol. 52, Supplement 5. 271 pp. ISSN 0005 3088, ISBN 80-85665-87-5, 45.00 CHF(Swiss Frans). 旧ソビエト連邦を除くヨーロッパ全体の淡水魚類目録，385種を科，属，種ごとにコード化し分類している．冒頭には淡水魚の種に対していくつかの定義を行うとともに，生化学や遺伝的手法によるデータを分類学的に解釈する際に生じる問題点等にも言及している．(KH)

日本動物大百科　第6巻　魚類. —日高敏隆監修，中坊徹次・望月賢二編．1998．平凡社，東京．206 pp. ISBN 4-582-54556-4. 3600円（本体）．日本に出現する魚類を目・科・属・種などさまざまな分類レベルで解説．豊富な写真と興味深いトピックスで読み物としても面白い．著者は本学会会員を中心とする68名もの専門家からなる．(MM)

□ 分類学・進化学

The Diversity of Living Organisms. —R. S. K. Barnes (ed.). 1998. Blackwell Science, Oxford, UK. xiv+345 pp. ISBN 0-63-04917-0. 6700円．本書の原案は同一編者によって1984年に出版された "A Synoptic Classification of Living Organisms"にあるが，内容は大幅に改訂されている．現生生物全体を門のレベルまで概説した本で，各門はオリジナルで作成したと思われるきわめてレベルの高い線画により，一目でその外部形態と体制がわかるようになっている．分類体系は少なくとも綱のレベルまで示されている．生物の多様性を知るうえで絶好の書．(MM)

□ 魚類生態学

サメ—軟骨魚類の不思議な生態. —矢野和成．1998．東海大学出版会，東京．viii+223 pp. ISBN 4-486-01425-1. 2500円（本体）．本学会会員でもある矢野和成氏によるサメ（エイも多少含む）の本．内容のほとんどが伝聞でないところにまず驚かされる．彼のような驚異的な乗船歴と海外渡航歴をもたないものにはまず書けないオリジナリティーの高い本．読み物としても非常に面白い．(MM)

□ その他

ナマズはどこで卵を産むのか—川魚たちの自然誌. —片野修．1998．創樹社，東京．225 pp. ISBN4-7943-0535-4. 1900円．淡水魚の生態や行動を研究している著者が20年ほどにわたる活動を通して見つめてきた川魚たちの生活と，人との関わりについての考えをスケッチブック風にまとめたもの．第1章「ナマズとアユモドキをめぐる話」から第8章「淡水魚と人間」までの構成で，その主な内容を大別すると，個体に焦点を当てた行動と生態，およびその利用と保護の問題となる．文章表現はやさしく，一気に読み進むと，川魚たちの生活史や個体間関係を通した生き方と共に，かれらに強い愛着を寄せ，人と川魚との共存のあり方を模索する一人の生態学者の生きざまが伝わってくる．(AG)